

令和2年度 林業普及週間現地情報 (9/7～9/11)

森林管理課

面づくり名人 田場氏を訪問

9月9日(水)

八重山農林水産振興センター農林水産整備課は、県庁森林管理課の林業普及指導員と共にアンガマ等の面づくりで有名なマルタ工芸の田場由盛氏の元を訪問し、話を伺った。

アンガマは、八重山地方に伝わる儀礼的集団芸能のひとつで、ウシュマイ（爺）とンミー（婆）の仮面を付けた二人が子孫（ファーマー）を連れて現世に現れ、家々を訪問し、珍回答や踊りなどで祖先の霊を供養する独特の旧盆行事である。

田場氏は、石垣市の造林地から払下げしたハスノハギリの材などを使って、約60年に渡りアンガマ面づくりを行っているとのことであった。

また、田場氏は「ハスノハギリは幹のみではなく、枝も使うことができるため、お面づくりには最適の材である。」と語っていた。

お面づくりを始めた当初は1組つくるのに3日かかったそうだが、近年は1日に1組つくることができるようになったと自慢げに話す面づくり名人は、県内の獅子舞のお面づくりなども手がけるなど、今尚、進化を続けている。

今後も、定期的に田場氏の元を訪問し、お面づくりの技術に関する知見を深めつつ、島産材を使った伝統工芸品のPRなどについて支援していきたい。



マルタ工芸にて田場氏へインタビュー



アンガマ面

(報告者：八重山農林水産振興センター 金城)